

新潟水俣病50年、熊本水俣病60年 水俣病の解決の道筋を求めて fromにいがた シンポジウム



本年5月31日、「新潟水俣病公式確認50年式典」が行われました。その中で、被害者の代表は「50年を機に、国と加害企業の責任で、すべての被害者を救済することを、同じ被害者としてあらためて強く求めます」と訴えました。比して望月環境大臣は、水俣病の「教訓を国内外に発信するとともに、世界の水銀対策をリードしてまいります」と述べたものの、目の前の未救済被害者の対策については一言も触れませんでした。

今年に入り、国はこれまで「不知」としていたチツソと同種の6工場の排水調査の分析結果を示す文書を提出。また、県は水俣病特措法の非該当処分の取消を求めた3名の異議申立を認め、これを受けて昭和電工は一時金を支払いました。さらに、西澤新潟県・市認定審査会長が、「52年判断条件に該当しない場合でも、メチル水銀による健康被害の可能性が否定されるわけではない」、国の認定制度について「中等症・軽症の対応が欠けている」とし、見直しが必要との見解を示しました。このように、水俣病は半世紀を経て、問題解決に向けて大きく動きだそうとしています。

9月12日、淡路剛久さん(立教大学名誉教授)、尾崎寛直さん(東経大准教授)、日弁連公害対策委代表から「解決に向けての問題提起」をいただきます。
新潟から水俣病解決の道筋を切り開こうという試みです。ご参加ください。

参加無料
申込不要

9月12日(土)13:30～16:00
コープシティ花園4階 ガレツソホール 新潟駅万代口徒歩1分
(新潟市中央区花園1丁目2番2号)

主催 新潟水俣病阿賀野患者会・同弁護団・同共闘会議

連絡先 新潟水俣病共闘会議 TEL025-281-2466